



安倍政権が強行する沖縄県名護市辺野古での米軍新基地建設に向けた海上作業に反対し、中止を求める抗議集会が23日、米軍キャンプ

シュワブのゲート前で開かれ、県民の怒りで埋め尽くされました。7月以降に本格化した現地の抗議行動で最大規模となる3600人(主催者発表)が参加しました。

辺野古で最大規模抗議集会 新基地止めよう3600人

那覇、沖縄、名護市など県内各地から少なくとも35台のバスを手配。それでもバスに乗り切れない人が続出しました。家族連れやお年寄り、地区を挙げての参加などが目立ちました。

「工事ダメ」と子どもと手作りしたボードを手に那覇市から家族と駆け付けた男性(34)は「将来子どもから『何もなかったの?』と言われたいよう今しなければ」と話しました。「これ以上の基地はいりません」などのプラカードを持った子どもなど広範な市民が基地周辺の歩道を約500メートルにわたって埋め尽くしました。県民総意を力づくで押さえつけて工事を進める政権と、埋め立てを承認した仲井真(なかいま)県政に対し、全県的な怒りの広がりを示しました。



辺野古新基地は許さないと抗議する8・23日県民大行動参加者

速報

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2014年(平成26年) 8月23日(土)
発行所 琉球新報社
郵便番号 900-8525
那覇市天久305番地
©琉球新報社2014年

辺野古新基地中止を

工事強行に怒

辺野古への新基地建設に反対し、シュワブゲートを上げる参加者。23日午後1時26分、那覇市辺野古のシュワブゲート前で撮影

県民大行動を大きく伝える地元新聞

県民の変化!

8月26日付「琉球新報」の世論調査では、新基地建設中止を求める声が8割に増えました。これまで7割台を示していました。

沖縄にこれ以上基地をつくるな!の運動を私たちも強めていきましょう。

沖縄には在日米軍の74%近くの基地が置かれています。それ故にさまざまな問題が山積んでいます。

辺野古新基地建設は、世界一危険と言われている普天間基地の移転・閉鎖を求める県民の闘いに押され、一度は国外移設・県外移設に向きかけました。しかし日米両国の執拗な働き掛けにより、知事も最低限県外移設という公約を投げ捨ててしまいました。

そして今、圧倒的多数の県民の意向を無視し強権的に工事を強行しているのです。

みなさまの願い実現に
力いっぱいがんばります

川西市議員
北野のり子

川西民報

2014年8月号外
発行 日本共産党
川西市委員会
電話 792-2164